# 四国4県ESD実践事例のご紹介

## 東雲ピカピカ ESD

私たちが育てるコミュニティファームー



NPOと愛媛大学が協働して、校区内にある東雲公園の一部をコミュニティファームとして活用し、東雲小学校の子どもたちがサツマイモを育てる農業を体験。循環型社会に向けた自然農法や地域の人たちとのつながり、生物多様性の大切さに気付くようにプログラムを設計しました。さらに、防災訓練時に育てた野菜を炊き出しの食材として、地域全体で防災力を向上させる重要性を学び、自らが主体的に取り組む姿勢を身に付けることを目指しました。

# 物部の森のもの知り博士になろう!

森林保全と生き物たちとの持続可能性を考える一



香美市こどもエコクラブが、森林の消滅と山の崩壊につながる 獣害、その中でもシカによる食害の影響を学び、世界の獣害の 現状や対策も学ぶことで、シカを捕獲するだけでなく食材とし て有効利用するなどの、地域の経済活動に活用する方策・可能 性を探りました。また、生きもののつながり一生態系一の理 解をすすめる中で、地域の経済活動や自分たちの暮らしが生態 系と密接に関係していることについて気づき、考えを広げまし た。

## 樹木の気持ち』とつながろう!

-まちも里海も豊かにする樹木のはたらき-



善通寺こどもエコクラブの子どもたちが、公園の樹木や街路樹に触れて観察しながら、樹木の誕生から死までの生活史を学び、子ども樹木医になって、樹木が健康に育つためにどのような環境が必要かを考えました。さらに郊外では、田園の湧水を涵養する森林の働きを学び、これらの水が里海を育むことを実感。樹木・森林が人間の暮らしに与える恩恵に気付いて公園に戻り、どのような公園になるとよいか、自分たちに何ができるか話し合いました。

#### 私たちの暮らしと河川環境、生き物のつながり 一水質調査から見えてきたこと—



加茂谷中学校の生徒が、那賀川水系の水生生物を調査し、人間による汚水が生物に与える影響を考えました。調査結果から水質レベルを把握し、流域マップに反映させて、その原因と対策を考察。汚水の浄化実験を行い、自然の水の浄化には多くの微生物群が大きく作用していることに気付きました。さらに、自然界における人と社会について話し合い、どうすれば今の水環境が持続、向上できるか、自分にできることを考え、実行することを目指しました。